



AJU

ラルシュ

かなの家便り



No.241

「なかまがふえたよ」・・・いぶきの家から

今年の春、いぶきに一人のなかまが増えました。生子大輔さんです。生子さんは、4月からまどい作業所に通っています。週3日いぶきに泊まり、その他の日は自宅へ帰っています。

いぶきの現住人（なかま）は、柘田穂純さん、大沢仁さん、若本政一さん、戸田晶久さん、生子大輔さん、の5人です。

今回は、先輩のなかま達から生子さんのことを聞いてみました。

稲川 生子さんがいぶきへ来て、8ヶ月がたちましたね。生子さんってどんな人ですか。
大沢 生子君は、「コーヒーのんだ。」っていう。うふふ。「車のった。」「畑やった。」っていう。「草とり。」「コーヒーあつい。」「さんぼした。」「つどい行った。」アハハハ。
若本 生子さんは元気だね。
稲川 そうだね。いつも薄着だよ。でも風邪ひかないし、ハイキングでも歩くの速いし、体力あるんだね。

稲川 穂純さんは？何かある？二人でよく「ウルトラマン」聴いてますね。

柘田 はい～。ん～。

若本 生子さんは音楽好きかな。

大沢 うん。そう。おきなわの歌。

稲川 あと、静かだけど、みんなの事よく見てるよね。

みんなの話もよく聞いている。

若本 そうだねえ。みんなが話していると、いっしょに聞いているねえ。



稲川 生子さんはいぶきへ来た初めのころと比べてどう？何か変わりましたか？

戸田 前は、「戸田さん。」って言ってたね。しょっちゅうだよ。頭痛するよ。こっちは。「大沢さん。」「まささん。」って呼んでくれよ。

大沢 来たときは、きんちょうしてた。私、さいきん、リラックスしているように見える。

若本 トイレでよく、しゃべってる。

お祈りの歌を歌うようになってきた。時々お祈りもする。

稲川 そうだね、「小さなひとびと」が好きだね。あと、食器洗いや、服をたたんだり、だんだん自分で、できるようになってきたね。がんばってますね。

大沢 うん、そうね。

稲川 これからも、一緒に歌いましょう。一緒にコーヒー飲みましょう。

みんな これからもよろしくおねがいしま～す。 （いぶきハウスリーダー・稲川 勢都子）



～かなの家まつりから～

10月27日に行われたかなの家まつりは、あいにくの雨の中、まどい作業所の中で屋台、バザーが出され、午前中は、なかまのえんげい大会、午後は毛糸を転がしてみなで作った大きな網に、参加者が捕らえられた魚となり、みんなひとつの網に入ってつながっている事を表現しました。皆さん、ありがとうございました。



今年も、たくさんの人たちがかなの家を訪れてくださいました。その中で、高橋まり子さん、横井圭介さんがアシスタントとして加わり、高橋まりさんはもうすぐ一年が経ちます。今年のかなの家祭りの担当をしてくれました。

「ここんとこのかなの家」



初めまして。今年の4月から家庭アシスタントをさせていただいております高橋まり子と申します。いつまでも新人のつもりでおりますが、気がつくとい番偉そうな顔をして家庭の中に納まっている次第でございます。

先日、かなの家で毎年恒例のかなの家祭り（ファミリーデー）が行われました。あいにくの雨ではございましたが、目を覆いたくなるようなまぶしいセーラー服姿の大沢仁さんによる妖艶なダンスを筆頭に、それぞれ歌や踊りなどの出し物で盛り上がりました。厚かましくも、私はかなの家祭り実行委員会に立候補したあげく司会も参加させて頂くことができました。なるべく壁の花となるように肝に銘じておりましたが、気がつくとい拡声器を片手にその場を仕切っておりました。ドンキ・ホーテで仕入れたムーティの衣装がいけなかったのでしょうか。そんな反省をしつつ、来年はどんな衣装を着ようか悩む今日この頃です。（つどい・家庭のアシスタント 高橋 まり子）

～なかまの作業場から～

「心を合わせて」

まどい作業所の日中活動の1つに『紙漉（す）き作業』があります。牛乳パックのリサイクルで、カード、はがき、しおり（今回の通信に同封）、麦飯石せっけんの帯（おび）、それからハーブせっけん（国際アムネスティ仕様）の帯等、たくさんの種類の手作り和紙を作っています。これらには全て、春の散歩をかねて摘み取ったヨモギや、秋の稲刈りの後のわら等が入っています。紙漉きはたくさんの工程を必要とします。原料を切る、煮る、剥（は）がす、干切る、洗う、繊維を分ける事で種（タネ）をつくり、この種を水中で攪拌（かくはん）し、掬（すく）う。

ここまでで前半が終了。_____の部分仲間の人たちの作業となります。この後、一つの和紙製品となって皆様のお手元に届くまでにまだたくさんの工程がありますが、今回は省略。

さて、まどい作業所を訪れた事のある方は大介さんと共に紙ちぎりの作業をされたことなどをなつかしく思い起こされるのではないのでしょうか。彼は大きな瞳でまっすぐに人を見つめ、時にはびっくりするほど元気な笑い声を立てたり、素直に静かに耐えている時もあります。いつもあるがまを受け入れ、ひたむきに生きる姿勢に惹（ひ）かれます。どうぞ、皆様かなの家にお出かけ下さい。大介さんは今日も訪れてくださった方と心をあわせるように紙ちぎりをしています。

（仕事のアシスタント・林 佐知子）



「かたまり」

知的障害者関係施設の全国会議が横浜で行われた。会場は5千人を収容できる国内最大級の会議場であった。数多くの課題がいまだに流動的であり、政局の渦に絡めとられて虚しく回る一葉のような障害者自立支援法の是非を、この日も官民それぞれの代表が自分の立場の説明で終始した。

疲れのためか悪寒、吐き気を覚え、周りの様子を見る余裕も無く会場を抜け出しトイレに駆け込んだ。症状が治まり、会場に戻ろうとその内扉を押し開け薄暗い巨大な空ろに足を踏み込んだ瞬間、背筋が凍った。どれ程目を凝らしても5千人弱がひしめく暗がりの中に、自分の席を見つける事ができなかった。

田舎の映画館程度の空間しか知らない私には、座席番号を控えておくという習慣が無かった。貴重品は身につけていたので無理に戻る必要は無いのだが、突然に訪れた「分らない」という出来事に足がすくんだ。自分と自分の帰るべき席との間には『障害』という自分だけの力では動かせない巨大な塊が居座っていた。障害をもった仲間たちが、私のような一瞬の出来事でなく、絶え間なくこの塊とあらい、苦しんでいる事をあらためて思い知らされた。

（共同リーダー 林 健二）

—...—...— 2007年のかなの家の歩みをふりかえって —...—...—

この一年、自立支援法に対応する為に日本中の障がい者とサービス提供事業者は四苦八苦しています。かなの家もまどい作業所のあり方を模索し、たくさん話し合いの時間をとってきました。2008年4月からは新しい体制になります。一方、新しくハンディを持ったなかまやアシスタントが参加してくれました。すまいや作業所の生活に新鮮ないぶきをもたらしてくれたと同時に混乱も見られましたが、今では落ち着いてきています。若いアシスタントがいろんな面で責任を担い始めていて、世代交代に取り組む時期に来ていると感じています。かなの家は次の段階に向けて歩んでいると思います。しかし、なかまの人達が神様から受けた使命は変わる事はなく、多くの人を呼びよせ大事な事を伝えていると思います。私たちはなかまが使命を果たすことを手伝うよう呼びかけられていると思います。忙しい毎日でも神様の呼びかけに耳をすませていたいと思っています。

第三の家を建てる事業が始まりました。今まで多くの皆さんからいただいたご寄付を積み立てた資金で土地(2000万円)を購入し2008年3月末の完成に向けて新しい作業棟の建設が始まっています。6人定員の小さな木造の建物です。そして、2008年秋からハンディの重いなかまが住めるバリアフリーの家を立て始めるよう計画しています。皆様のご支援がなければ進んでいく事はとても困難です。どうぞよろしく願いいたします。

(共同リーダー 西田 正志)



購入した農地(約290坪)



11月21日、中谷神父さんの司式で起工式をしました。



3月の完成に向けて工事が進んでいます。

今年も一年、ありがとうございました。



ラルシュ・かなの家
421-2124 静岡市葵区足久保 1255
Tel 054-296-1116 Fax 296-6433
郵便振込 00870-9-17938 ラルシュ かなの家
e-mail larche_kana@yahoo.co.jp
<http://www.larchejapan.org>